

6 症状の進行に対応する「認知症ケアパス」

個人差はありますが、認知症は下表のように進行し、その時期ごとに適切な支援や利用できるサービスがあります。

認知症ケアパスを見ると、認知症の進行に応じて家族の心がまえや医療・介護サービスといったケアの流れが具体的にわかります。

認知症の進行度		本人の様子	家族の心がまえと対応のポイント	医療や介護の支援
軽度認知障害 (MCI)	認知機能が低下した状態だが、認知症ではない	<ul style="list-style-type: none"> 同じことを何度も話すことが増える リモコンや電話の操作がわからなくなる 小銭での計算が面倒でお札で支払うようになる 手の込んだ料理を作らなくなる 外出するのが面倒になり、身だしなみに気を使わなくなる 	<ul style="list-style-type: none"> 認知症に関する正しい知識や理解を深めましょう <p style="text-align: center;">ひとりで抱え込んで！</p>	<ul style="list-style-type: none"> 認知症予防に取り組みましょう かかりつけ医に相談しましょう
認知症（軽度）	日常生活は自立している	<ul style="list-style-type: none"> 大事な約束を忘れ、困ることがある 漢字や計算の間違いが多くなる 楽しんでいた趣味に興味がなくなった その場を取り繕うとする 冷蔵庫の中に同じものがいくつもある 	<ul style="list-style-type: none"> 同じことを何度も聞かれて、できるだけきちんと対応しましょう 忘れてしまうことや失敗に対して、指摘したり注意したりすることは、本人との関係を悪くし、症状を悪化させます できることは取り上げずに、できないことをサポートしましょう 本人の行動には理由があります なぜそのような行動をするのか考えることが大切です 介護者の気持ちは本人にも伝わります 介護者がリラックスできる時間を持つことは必要です <p style="text-align: center;">頑張りすぎない！</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センターや市町の窓口に相談しましょう 介護保険サービスの利用について検討しましょう 家族だけでなく地域での見守りや支援も必要です ご近所さんや担当の民生委員に声をかけてみましょう
	誰かの見守りがあれば日常生活は自立している	<ul style="list-style-type: none"> たった今話したことを忘れる 料理をしなくなる 処方された薬の管理ができない 些細なことで怒りっぽくなる 		
認知症（中等度）	日常生活に手助けや介護が必要	<ul style="list-style-type: none"> 季節にあった服装が選べない 顔を洗わない、入浴を嫌がるなど身だしなみを気にしない 排泄を失敗する 知人のことがわからなくなる 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な症状が現れてきて介護者が疲れてしまうことも… 通所系サービスのみでは困難な時期、訪問系や宿泊系サービスの検討などをしましょう 	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の症状が強い場合は、かかりつけ医に相談し、必要な時は専門の医療機関の受診を検討しましょう
認知症（重度）	常に介護が必要	<ul style="list-style-type: none"> 身近な人の顔がわからなくなる 自由に身体を動かせなくなる 食べ物の飲み込みに支障ができる 車いすやベッド上で生活が長くなる 言葉数は少なくなるが、感覚（目・耳・鼻などの機能）は残っている 	<ul style="list-style-type: none"> できなくなっていく能力を悲観的にとらえるより、残された能力を大切にしましょう 本人が安心できる環境づくりを心がけましょう <p style="text-align: center;">一緒にいられる時間を大切にしましょう</p>	<ul style="list-style-type: none"> 終末期のケアについて家族間で話し合いをしておきましょう

相談

かかりつけ医・オレンジドクター・認知症疾患医療センター・地域包括支援センター・ケアマネジャー・認知症地域支援推進員・民生委員等

